

SEAJ After コロナアンケート

(運営委員会 チーム J・SEAJ 事務局)

SEAJ は7月下旬、会員向けに「SEAJ After コロナアンケート」と題した書面によるヒアリングを行いました。

回答いただいた会員企業の業態としては製造装置が中心ですが、デバイス、材料、部品を始めとして様々な分野があり、自由記入していただいた回答も多岐にわたるものとなりました。

日本における新型コロナの「感染第3波」がどうなるかについては、まだまだ予断を許さないものがあります。12月となった今、更に「一丸となって準備を万全にすべき」タイミングに合わせて、アンケート結果を誌面掲載いたします。(個々の回答者や社名は判らないようにしております)

ご自分の所属する企業・団体の「緊急事態宣言(4月7日～5月25日)～7月」当時の状況を思い浮かべながら、今後につなげる前向きな「ベンチマーク」材料としてご活用いただければ幸いです。

1. アンケート期間: 2020年7月13日(月)から7月31日(金)
2. 対象: SEAJ 各13委員会、特別プロジェクト 参加者
3. アンケート配布数220名 回答数119名 回答率54%
4. アンケート作成 集計 分析: SEAJ 運営委員会 チーム J

アンケート結果について

(1) 自粛要請の想定、業務影響

会員企業毎に若干の温度差はあるものの、BCM/BCP プランの策定や平時からの訓練/シミュレーション。テレワー

クを可能とする VPN やツールの整備、社内決裁システムの電子化といったことは、比較的早い段階から整備されている企業が多かったようです。

いつかパンデミックが起きること自体は「想定内の範囲内」であったが、その範囲や規模が「想定外のスケール」で起きたということになります。

会社の拠点が首都圏か郊外により、業務への影響度は差がありました。公共交通機関での通勤が必須かどうかによって、各社の対応方針も大きく異なっていたことが読み取れます。

(2) コロナ禍の勤務形態、テレワークの課題

勤務形態としては、8割の回答が「テレワーク・時差出勤」に集中しました。回答者が所属されている部署の特性という可能性もありますが、「変化なし」という回答も少数ありました。

テレワークの課題としては、「労務管理、承認決裁」が課題として上位となりました。管理職を対象としたアンケートではありませんので、母集団の分布を考えると、管理する側の視点だけでなく、部下の方も相当ストレスを感じているのかも知れませんね。

(3) テレワーク事例(できた/できなかった)

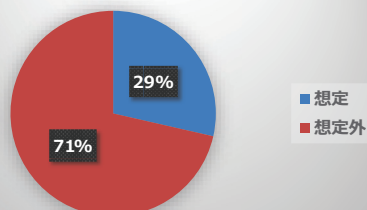
このコメントは自由記入いただいた欄から抜粋したもので、ベンチマークを行う上では非常に参考になると思われます。

元々半導体製造装置、FPD 製造装置は輸出比率が8～9

(1) 自粛要請の想定、業務影響

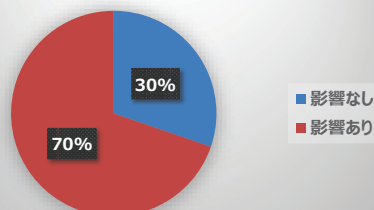
2020年9月4日運営委員会 チームJ
Afterコロナアンケート結果報告

1. 自粛要請を想定していたか



- パンデミックを想定していた人も、ここまで広範囲、長期化したのは想定外
- SARS/MARSに比べ、感染範囲や経済影響が大規模とは想定外
- 各国の感染状況、各国の対応、状況が著しく異なっているのは想定外

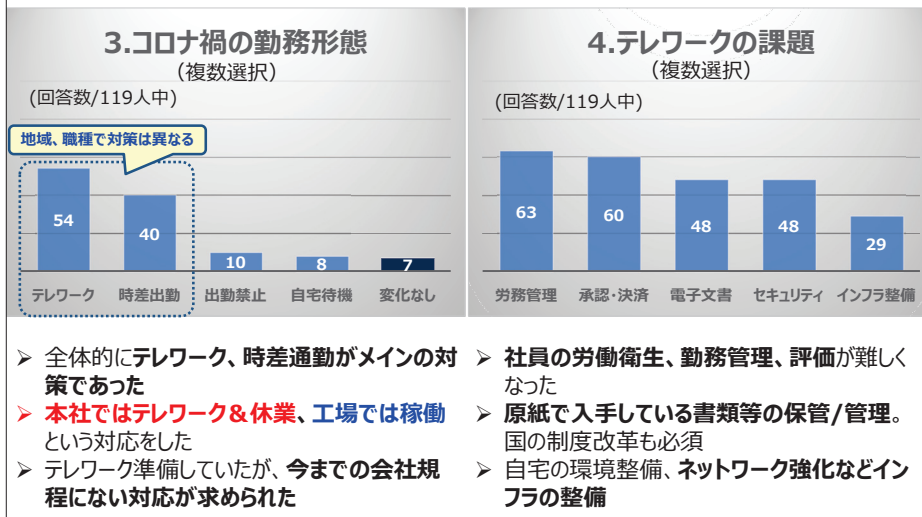
2. 業務影響があったか



- 主たる会社の拠点が首都圏か郊外かにより影響の度合いは異なった
- 影響なし理由は、以前からテレワーク推奨していた、通常通り通勤した
- 外部とのコミュニケーションに影響したなど

(2) コロナ禍の勤務形態、テレワークの課題

2020年9月4日運営委員会 チームJ
Afterコロナアンケート結果報告



(3) テレワーク事例 (できた/できなかった)

2020年9月4日運営委員会 チームJ
Afterコロナアンケート結果報告

区分	できた	できなかった
業務管理	- テレワーク、時差出勤などに対する意識が柔軟になった - できない理由をあげることなく、社内外意識が大きく変わった - 業務単純化、標準化、可視化を皆で考えるようになった - ほとんどの事務処理はテレワークでできることがわかった (効率も落ちても不可能ではない)	- テレワークをしやすい、しにくい職種がある (現場業務) - インフラ不備、勤務管理の不慣れなどで業務効率低下 業務指示や評価方法が難しい、決まっていない 業務とプライベートの境が曖昧、定時に降もスルズル業務 顧客、取引先などへヒアリング機会減少、連絡が難しい
オンライン会議	- オンライン会議が浸透したので、テレワークは苦ではなかった - お客様やパートナー様もオンライン会議を受け入れてくれた - 要点のみ、短時間が普通となり、会議時間が短くなった - 社内の他、社外もオンライン会議で十分なことが多かった - 自分の手元で資料が見られ、視認性がよい	- 微妙なニュアンスが伝わらない、相手のニュアンスがつかめない - Face to faceによる関係構築が出来ない (初対面など) - 多数では意思疎通が困難で、意見のタイミングがつかめない - 音声、表示途切れによるイライラや混乱、会議の質が低下 - 働いていることをアピールする為か、やたら会議が招集された - ブレインストーミング的な打ち合わせはやりづらい
インフラ	- 働き方改革やオリンピック対応で既にシステム構築していた - 普段からテレワークのインフラ下地があった - 外出、出張の多い職場であり、そのための機器はそろっていた - ネットワーク環境は会社より自宅の方が良かった	- サーバー負荷、障害、遅延、インフラ環境が想定を超えていた - クラウド化していない業務があり、一部で出勤が必要になった - CADなどハードウェアの制限により、設計効率は大幅に低下 - テレワーク時の通信、インフラに個人差が生じていた
働き方改革	- 会社全体で働き方改革を取り組む良い機会になった - 通勤や家庭事情など各自の働き方の多様性がうまれた - 業務後の余暇 リフレッシュをしやすい 家族との時間が増えた、感染確立の低減	- 曜日の感覚などマヒしたり、新しいストレスが蓄積してしまっ - 在宅勤務中にもかかわらず、連絡がつかない例があった 個人差が大きかった (ON/OFFの切り替えがスムーズな人とそうでない人と両極端な事例が報告された)
通勤レス	- 感染の可能性のある満員電車通勤を避けることができた - 通勤時間がゼロになり、時間の有効活用が可能になった - 通勤時間の低減で、家族サービスなど、自由時間が増えた - 通勤時間が無くなった為、体の負担、ストレスから解放された	特にコメントなし

割を占めることもあり、「世界中どこにいても仕事ができる」仕組みはある程度備わっていたようです。そもそも SEAJ の関連する業界が「非接触でデータをやり取り」することでビジネスが成り立っており、意識面でも取組面でもテレワークへの「親和性」はかなり高いと言えます。

一方で「できなかった」欄に載っているコメントにも注目したいと思います。「インフラ」の欄では、データ通信の集中により必要容量が限界を超え、「サーバー負荷、通信障害、遅延」に多くの企業が悩まされたことが読み取れます。先進性をもって周到に準備を進めてきた会員企業でも、このようなことが起きています。IT 部門の方々の大変な苦勞が偲ばれ、After コロナを見据えた「リソース配分」の重要性が示唆されるアンケート結果です。

(4) 「働き方改革」、「構造改革」の課題

新型コロナ感染拡大の前から、会員企業各社で取り組まれてきた課題ですが、明確に After コロナ後の働き方を見据えたものとなってきています。菅政権のリーダーシップのもと、DX (デジタルトランスフォーメーション) の急加速を受け、各社で改革が一挙に実現してゆくことが期待されます。

(5) SEAJ で共有してほしいこと

アンケートの結果を受け、できることから実行に移すべく、鋭意努力中です。事務局としてはハードルが高く、耳の痛い内容も含まれていますが、折角の機会ですので紹介致します。会員企業の皆様と項目を共有しながら、前向きにこのコロナ禍の難局を乗り越えてゆきたいと考えております。

(4) 「働き方改革」、「構造改革」の課題

2020年9月4日運営委員会 チームJ
Afterコロナアンケート結果報告

区分	主なコメント
事務所環境等の再整備	● 事務所レイアウト変更（3密対策）、テレワーク、時差出勤、オンライン会議の推奨などを前提とした環境整備 ● Afterコロナにおける業務規則の改定、業務管理方法の見直し ● 事務所前提でなく、テレワークを前提とした業務仕分けと環境構築 ● 時間勤務からジョブ管理への移行、成果評価の仕組みの構築 ● 社内インフラ（フリーケーション）、自宅環境（在宅補償等）
ペーパーレス、電子承認	● 書類印刷、押印などの事務手続きの簡素化見直し、電子化 ● 出荷貨物（現物）の確認や、L/Cや経理伝票、原紙サイン等の押印や印紙貼付が必要な作業の見直し ● 外部監査（例；税関や官庁）、社内QMSなどで原紙を求められることが多く、その様な古い慣習からの脱却
サービス業務	● 現場トラブル状況を遠隔管理できる様にモバイルビデオ動画環境の共有化、整備が必要 ● 設備サービスエンジニアが移動できない場合に備え、リモート作業の環境を充実させる（テレビ会議を現場で繋いでアドバイスをもらいながら作業する）

(5) SEAJで共有してほしいこと

2020年9月4日運営委員会 チームJ
Afterコロナアンケート結果報告

主なコメント

<各種情報共有>

- ☐ 大きな事業転換や業務改革に成功された企業のお話を伺いたい
- ☐ 働き方や生産拠点シフトなど顧客や同業他社の動向を知りたい
- ☐ テレワーク活用事例、成功事例（業務効率を下げないノウハウなど）
- ☐ 各社のRPA、BCP事例の共有
- ☐ 米中関係の今後の動向、中国貿易など
- ☐ 渡航制限、ビザ発給状況などの情報共有
- ☐ 人・物の国際的な流通への影響状況。（緩和・制限）
- ☐ コロナ影響度分析（装置市場の実績、予測、各社の業績）
- ☐ 新しいアイデアができるようにコロナ対応状況など情報交換の場を作りたい

<ウェビナーなどのオンライン会議>

- ☐ Webinar（インターネット上で動画を使ったセミナー）拡大（例：Zoom）
- ☐ 招待講演の代わりにオンライン講演会など、横コミュニケーションの方法を検討して欲しい
- ☐ 個々の専門委員会の横断的なオンライン会議を検討して欲しい

<ガイドライン、遠隔サポート意見集約など>

- ☐ 顧客からのサポート要求などについて、製造装置業界としてAfterコロナガイドライン・指針を出してほしい
- ☐ トラブルや立ち上げ対応のための遠隔サポート、顧客先ネットワーク構築やセキュリティ制限に関する指針の提案や各社の意見集約

(6) まとめ

今までの要点をまとめると、以下の通りとなります。

- ・パンデミックを想定していても、ここまで広範囲、長期化したのは想定外
- ・コロナ禍の主な勤務形態は、テレワーク、時差通勤がメインの対策
- ・主たる拠点が首都圏か郊外かにより影響の度合い、対策は異なった
- ・テレワークの課題は以下の順番となった
労務管理 > 承認・決済 > 電子文書 > セキュリティ > インフラ整備
- ・テレワーク、オンライン会議により、社内外の意識が大きく変化
- ・Afterコロナに向け、「働き方改革」、「構造改革」の課題が浮き彫りに
- ・SEAJで共有して欲しい、意見、改善要望について幅広い意見が聞けた

お知らせ：「新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」のご紹介

安全・サポート部会 安全専門委員会では、「半導体・FPD 製造 / 検査装置業界の製造事業所における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を SEAJ ホームページに公開しています。こちらあわせてご参照、ご利用ください。

<https://www.seaj.or.jp/file/c08caa22cc3067d7c5a83b2c49f62055009b3e6d.pdf>